

Title	著訳者紹介
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No. 48 : 3-7
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=2264
Rights	

※権利者の依頼により、p. 5の一部を白抜きにしています。

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

阿久戸 光晴 あくど・みつはる

1951年生まれ。一橋大学社会学部・法学部卒。住友化学工業株式会社勤務を経て、東京神学大学博士課程前期修了後、米国エモリー大学神学部大学院ほか。その傍ら聖学院大学及び聖学院大学アトランタ国際学校開設業務を担当。その後聖学院大学宗教主任兼教授を経て、現在、聖学院大学学長。その他荒川区不正防止委員会委員長代理など。

〔著書〕『近代デモクラシー思想の根源』、『説教集 新しき生』、『ヴェーバー・トレルチ・イエリネック』(共著)、『神を仰ぎ人に仕う』(共著)、『キリスト教学校の形成とチャレンジ』(共著)、『あたたかい地域社会を築くための指標』(共著)ほか、著書・論文多数。

杉原 泰雄 すぎはら・やすお

1930年生まれ。一橋大学法学研究科博士課程修了(法学博士)。同法学部専任講師、助教授、教授を経て法学部長。その後、東海大学法学部教授、駿河台大学法学部教授・学部長。現在、一橋大学名誉教授・駿河台大学名誉教授。

〔著書〕『憲法と資本主義』、『憲法と資本主義の現在』、『憲法と国家論』、『憲法読本』、『憲法の歴史』、『人権の歴史』、『民衆の国家構想』、『国民主権の研究』、『人民主権の史的展開』ほか。編・共著として『新版 体系憲法事典』、『日本国憲法史年表』、『論争憲法学』など。

堅 田 剛 かただ・たけし

1950年、栃木県宇都宮市生まれ。上智大学法学部卒業。明治大学大学院法学研究科博士課程修了。獨協大学法学部教授。

〔著書〕『法の詩学——グリムの世界』(新曜社、1985年)、『歴史法学研究——歴史と法と言語のトリアード』(日本評論社、1992年)、『独逸学協会と明治法制』(木鐸社、1999年)、『法のことば／詩のことば——ヤーコブ・グリムの思想史』(御茶の水書房、2007年)、『明治文化研究会と明治憲法——宮武外骨・尾佐竹猛・吉野作造』(御茶の水書房、2008年)、『ヤーコブ・グリムとその時代——「三月前期」の法思想』(御茶の水書房、2009年)など。

石 村 修 いしむら・おさむ

1946年、栃木県佐野市生まれ。専修大学法科大学院教授（院長）。

〔著書〕『明治憲法』（専修大学出版局，1999年），「明治憲法の制定」（杉原泰雄編『新版 体系拳法事典』2008年），「東アジア共同体構想」（笹川・金・内藤編『日本の植民地支配の実態と過去の清算』，風行社，2010年）。

〔論文〕「明治期における地方自治の形成」（法学新報108巻3号，2001年），「明治憲法とドイツ」（ジャイロス11号，勉誠出版，2005年）。

武田 清子 たけだ・きよこ

1917年生まれ。神戸女学院大学部，オリヴェット大学，コロンビア大学，ユニオン神学校に学ぶ。文学博士（東京大学）。専門は思想史。1961–83年，国際基督教大学（ICU）教授，1983–88年，同大学院教授。1971–75年，世界教会協議会（WCC）会長。ICU名誉教授・前理事，聖路加看護大学理事，UBCHEA名誉理事。

〔著書〕『人間観の相剋』（弘文堂），『土着と背教』（新教出版社），『正統と異端の“あいだ”』（東京大学出版会），『天皇観の相剋』（岩波書店），『戦後デモクラシーの源流』（同），『出逢い』（キリスト新聞社）など多数。編著として『思想史の方法と対象』（創文社）ほか。

〔訳書〕ラインホルド・ニーバー『光の子と闇の子』（聖学院大学出版会）など。

安酸 敏眞 やすかた・としまさ

1952年生まれ。京都大学大学院博士課程およびヴァンダービルト大学大学院博士課程修了。現在，北海学園大学教授。Ph.D., 京都大学博士（文学）。

〔著訳書〕Ernst Troeltsch（Scholars Press, 1986），『レッシングとドイツ啓蒙』（創文社，1998年），『歴史と探求』（聖学院大学出版会，2001年），Lessing's Philosophy of Religion and the German Enlightenment（Oxford University Press, 2002），『キリスト論論争史』（共著，日本基督教団出版局，2003年），トレルチ『信仰論』（教文館，1997年），F・W・グラーフ『トレルチとドイツ文化プロテスタンティズム』（共訳，聖学院大学出版会，2001年），K・バルト『十九世紀のプロテスタント神学（中・下巻）』（共訳，新教出版社，2006–2007年）など。

高橋 義文 たかはし・よしぶみ

1943年生まれ。アンドリュース大学大学院修士課程，東京神学大学大学院博士課程修了。神学博士（東京神学大学）。三育学院短期大学教授・学長，エモリー大学客員研究員を経て，現

在，聖学院大学総合研究所・大学院教授。

〔著訳書〕『キリスト教を理解する』（福音社），『教育の神学』（共著，ヨルダン社），『ラインホルド・ニーバーの歴史神学』（聖学院大学出版会），C・C・ブラウン『ニーバーとその時代』（聖学院大学出版会），J・ウィッテ『自由と家族の法的基礎』（共・監訳，聖学院大学出版会），ラインホルド・ニーバー『ソーシャルワークを支える宗教の視点』（共訳，聖学院大学出版会）ほか。

中西優美子 なかにし・ゆみこ

1999年，ドイツ・ミュンスター大学法学博士取得。2000年3月，一橋大学大学院法学研究科博士後期課程退学。2000年4月，専修大学法学部専任講師。2008年4月，専修大学法学部教授。現在に至る。

〔主要業績〕「EUにおける権限の生成」『国際法外交雑誌』108巻3号（2009年），「EUにおける環境統合原則」庄司克宏編『EU環境法』慶應義塾大学出版会（2009年），「個別的分野に付与されたEC権限の範囲」『専修法学論集』106号（2009年）他。

宮本 悟 みやもと・さとる

1970年生まれ。同志社大学法学部卒。ソウル大学政治学科修士課程修了〔政治学修士号〕。神戸大学法学研究科博士後期課程修了〔博士号（政治学）〕。日本国際問題研究所研究員を経て，現在，聖学院大学総合研究所准教授。専攻は政軍関係論，安全保障論，朝鮮半島研究。

〔共著・論文〕「国際社会の援助」中川雅彦編『朝鮮社会主義経済の現在』（アジア経済研究所，2009年3月）pp.71-87，「南北交易に対する経済動向の影響—南北交易と国際貿易の相関—」『海外事情』第57巻7・8号（2009年7月）pp.103-114，「同盟関係が南北朝鮮の全方位外交と核開発に与えた影響—〈見捨てられ〉と〈巻き込まれ〉の視点から—」『聖学院大学総合研究

所紀要』第45号（2009年9月）pp.357-382など。

高 萬 松 こう・まんそん

1953年生まれ。東京神学大学大学院博士前期課程修了。聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士（アメリカ・ヨーロッパ文化学）。聖学院大学総合研究所助教。

〔著書〕『フォーサイスの神義論』（基督教連合新聞社，ソウル・2007年，韓国語）。

〔訳書〕フォーサイス『バルンキドワ ク ヨルメ』（大韓基督教出版社，ソウル・1999年）（The Soul of Prayerの韓国語翻訳），大木英夫『ピューリタン』（基督教連合新聞社，ソウル・2010年，韓国語）。

〔論文〕「P・T・フォーサイスにおける戦争倫理」（古屋安雄他編『歴史と神学——大木英夫教授喜寿記念献呈論文集 下巻』聖学院大学出版会，2006年），「P・T・フォーサイスとピューリタニズム」（日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』2，2008年），「初期韓国教会とピューリタニズム」（日本ピューリタニズム学会『ピューリタニズム研究』4，2010年）。

佐藤 貴史 さとう・たかし

1976年生まれ。2006年3月，聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。現在，聖学院大学総合研究所助教。

〔著書〕『フランツ・ローゼンツヴァイク——〈新しい思考〉の誕生——』（知泉書館，2010年）。

〔論文〕「現実性と真理——フランツ・ローゼンツヴァイクの経験論——」（『宗教研究』第358号，日本宗教学会，2008年），「プロテスタント神学者トレルチとユダヤ人哲学者コーエンの論争——方法論から文化総合の問題へ——」（『聖学院大学総合研究所紀要』第47号，2010年）ほか。

〔翻訳〕カール・バルト『十九世紀のプロテスタント神学 下（第二部 歴史）』（共訳，カール・バルト著作集13，新教出版社，2007年），フランツ・ローゼンツヴァイク「新しい思考」（共訳，『思想』No.1014，岩波書店，2008年），アルフ・クリストファーセン／クラウドディア・シュルゼ編著『アーレントとティリッヒ』（共訳，法政大学出版局，2008年）ほか。

齊 藤 伸 さいとう・しん

1983年東京都生まれ。2007年9月聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程修了。現在，聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程在学中。

〔論文〕「シンボルの直観と再現前化作用——カッシーラーの『シンボル形式の哲学』第三巻の研究」（『聖学院大学総合研究所紀要』第46号，2010年1月）。

津田 謙治 つだ・けんじ

1976年群馬県生まれ。2005年京都大学大学院文学研究科キリスト教学専修博士課程修了。文学博士（京都大学）。現在、聖学院大学欧米文化学科教育補佐，明治学院大学・静岡県立大学非常勤講師など。

〔訳書〕J・N・D・ケリー『キリスト教教理史』上・下（一麦出版社，2010年）。

〔論文〕「マルキオン思想の多元論的構造——プトレマイオス及びヌメニオスの思想との比較において」（博士論文，2008年），「場（locus）と神の唯一性——反異端教父エイレナイオスの修辞学及び哲学的反駁」（『日本の神学』47，2008年），「古代教父思想における『時間』概念——エイレナイオス『異端反駁』の議論を中心として」（『基督教学研究』28，2008年）ほか。